

## ○農中森力(もりぢから)基金(第10回)助成決定案件の概要等

助成対象先	事業の概要
<p>とまこまいこういき            苫小牧広域森林組合            (北海道)</p> <p>事業実施面積 17ha</p>	<p><b>事業名：ICTを活用した被災森林復興～スマート林業 Atsuma モデルの構築～</b></p> <p>平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、厚真町では民有林3,236haが被災したが、その森林の復旧再生は未だ5%以下に留まっており、被災森林の荒廃が進行している。震災復旧事業の実施可否を判断するうえでは、境界測量等の現地調査により作業区域を明確化する必要があるものの、それには多くの時間と労力を要するのが実情である。</p> <p>そのため本事業では、ドローンレーザー等のICTを活用し、被害状況の効率的な把握により、被災森林の早期再生に向けた効果的な施業計画を新たに作成し、森林再生事業のモデルを構築することを目的とする。</p> <p>(申請の背景等)</p> <p>震災から5年が経過し、経年劣化による木材の腐朽が一層進行し、利用可能な被害木の減少とその価値の低下等により、森林再生に係る所有者の負担の増加や土砂災害の危険性も増すなど、その再生に至るハードルは高まりつつある。このため、本事業では、ドローンレーザー計測等の調査分析により、傾斜や土壌条件に応じ、施業優先度と復旧手法についてゾーニングし、効率的な施業ができる路網等を勘案したハード事業を検討する。併せて、様々な関係機関が個別に実施している復旧事業を視覚的にも共有できるよう一元化し、合理的・効率的な復旧事業が策定できるようなシステムを構築し、被災森林の早期再生に取り組むため、今回の申請に至ったもの。</p> <p>【申請金額】総事業費：9,165千円、森力助成：9,165千円</p>
<p>とおのちほう            遠野地方森林組合            (岩手県)</p> <p>事業実施面積 12ha</p>	<p><b>事業名：松くい虫被害地の森林機能の再生            —『銀河鉄道』の彼方に輝く『アカマツ林』—</b></p> <p>遠野市宮守地区(旧宮守村)は、『銀河鉄道の夜』の舞台と言われる岩手軽便鉄道(現在のJR釜石線)が通り、背後には広大なアカマツ林が広がっているが、近年の松くい虫被害の拡大等により、その質的劣化と資源量の減少が懸念されている。</p> <p>本事業は、被害調査のICT化、効果の高い地がき・地拵え方法の検討、被害木の更新伐採と抵抗性アカマツ及びカラマツの造林とそのコストの検証分析等により、施業の低コスト化を検討するとともに、将来的に施業が継続できる環境づくりに取り組み、県の木・旧村の木であるアカマツ林を保全・再生し、併せて美しい景観の維持等も図ることを目的とする。</p> <p>(申請の背景等)</p> <p>当地域に松くい虫被害が発生して約20年、先端地域として防除努力を続けてはいるものの、予算の制限、松くい虫監視員の高齢化等により、その防除は限界を迎えつつある。そこで、カラマツ造林を取り入れ短期的な収支改善も図りつつ、中長期的にはアカマツ大径材の生産も可能な施業ノウハウを確立・継承するため、今回の申請に至ったもの。</p> <p>【申請金額】総事業費：63,785千円、森力助成：28,972千円</p>

<p>おおさき</p> <p>大崎森林組合 (宮城県)</p> <p>事業実施面積 20ha</p>	<p><b>事業名：鳴子温泉「雫の森」再生プロジェクト</b></p> <p>鳴子西側地区に位置する共有林は、所有者の高齢化等から施業が長年放棄され、荒廃の一途を辿っている。また、同地域の溪流ではうっ閉した森林が水源涵養機能の発揮を阻害するなどして溪流魚の生息が危ぶまれている状況である。</p> <p>本事業は、長年放置され公益的機能の低下した混交林について、針葉樹は一部带状択伐を含む搬出・切捨間伐、広葉樹は一部植栽を含む更新伐、整理伐、切捨間伐により整備を行う。これらの施業により良質な自然環境の保全・再生を促し、溪流魚の生息環境の保全等にもつなげ、同様の荒廃した共有林の再生モデルとして発信し、今後の整備の加速化を図ることを目的とする。</p> <p>(申請の背景等)</p> <p>大崎管内には、奥羽山脈を源とした北上川の支流となる江合川をはじめ多くの河川があるが、近年は森林の手入れ不足などで水源涵養機能が低下し、河川水量の変動幅が拡大、時に水温上昇を招くなど、溪流魚の生息環境が脅かされている。このため、当組合は、分水嶺をまたいだ秋田県の漁協等とも連携し「森の恵みと水生生物」と題するフォーラムを共同主催するなど、その生物多様性保護に対する課題意識を強くもち、その対応が急務と感じている。</p> <p>当組合では、本事業の実施を通じて、昨今の異常気象などに左右されない高い水源涵養及び土砂流出防備機能をもった多様で健全な森林を整備し、溪流魚が自然産卵できるような生態系の保全を図り、加えて観光地である鳴子峡の景観保護、さらには本事業から得られる共有林の活用ノウハウを同様の課題をもつ地域へ広く普及させることなども目指すため、今回の申請に至ったもの。</p> <p>【申請金額】総事業費：26,506千円、森力助成：22,475千円</p>
<p>にしらかわちほう</p> <p>西白河地方森林組合 (福島県)</p> <p>事業実施面積 5ha</p>	<p><b>事業名：山林火災からの速やかな森林再生 ～AI 搭載型 UAV を活用した早期省力調査方法の確立～</b></p> <p>本事業の対象地は、2023年3月に発生した山林火災被災林である。被害面積は約35haで伐期を迎えた立木の多くが被災しその劣化が進行している。被災地において二次被害の防止や材の有効活用のためには、できる限り速やかな状況把握が必要となっている。</p> <p>そのため、本事業では、ICTを活用し被害状況の早期省力調査方法を確立し、その分析結果を用いて、被災森林の速やかな再生を目指すこととしている。</p> <p>(申請の背景等)</p> <p>広範囲におよぶ被災森林の現状を把握するには、通常多くの時間と労力を要する。このため、本事業では、山火事発生直後を想定しAI搭載型UAV航測にてデータを収集し、通常の調査との精度や実用性を検証するとともに、その深層学習分析により、被害範囲および被害強度を特定し、効果的かつ速やかにハード事業に移行できる方法を実証する。なお、得られた画像データは、境界面定や施業提案時の所有者の施業合意簡略化のツールとしても活用する。加えて、昨今の温暖化等の影響で山火事などの災害の増加が懸念される中、同様の被害地復旧の先事例となり得ることも波及効果として期待できるため、今回の申請に至ったもの。</p> <p>【申請金額】総事業費：34,939千円、森力助成：30,000千円</p>

<p>ぬながわ森林組合 (新潟県)</p> <p>事業実施面積 5ha</p>	<p><b>事業名：公図未整備地区における荒廃民有林「東中千本スギ」再生事業</b></p> <p>事業対象地の新潟県糸魚川市の「東中千本スギ」地区は、名前のおりかつては、地域住民から期待される林業地域であったが、所有者の山離れや境界が不明になるなどして荒廃化した。</p> <p>本事業では、航空レーザー計測・解析を行い、実態に即して現存する和紙図の調整・解析に基づく森林地番想定図の作成を通して、所有者の合意形成、作業道等路網整備を行い、木材生産機能など森林の多面的機能の回復を図り、荒廃林を再生し、地域の持続可能な森林管理の仕組みを作ることを目的とする。 (申請の背景等)</p> <p>本事業地は、林道等の路網が未整備で補助金を活用した森林整備ができず、長期間放置され、森林の多面的機能の低下により、溪岸が不安定化し山崩れなどのリスクが高まってきている。加えて、公図未整備かつ別地域の飛び地も数多く混在するため、森林経営計画の策定が長年見送られてきた地区である。そこで、本事業では、航空レーザー計測などを用い境界明確化を図るとともに、路網開設や維持管理コストの削減も念頭に置いて事業採算性を改善しながら、将来の間伐・主伐による所得拡大を両立できるモデルを再構築する足掛かりとするため、今回の申請に至ったもの。</p> <p>【申請金額】総事業費：14,095千円、森力助成：13,960千円</p>
<p>のと 能登森林組合 (石川県)</p> <p>事業実施面積 18ha</p>	<p><b>事業名：未来へつなげる林業遺産 ～「県木アテ100年の森づくり」モデル事業～</b></p> <p>当地域は、江戸時代から続く県の木アテ(ヒノキアスナロ)の主産地であり、これまで半農半林的な林業経営により木材生産が維持されてきたが、過疎化の進行に伴う管理不足により、雪害・病害が蔓延し、材質の低下や森林の荒廃が危惧されている。</p> <p>本事業では、アテ人工林とその周辺林分を団地化してゾーニングし、各々の林況に応じた森林整備を行い、林分の健全性を回復させ、森林の公益的機能の高度発揮を図るとともに、林業遺産「能登のアテ林業」の普及・啓発とアテ文化継承・発信のためのモデル林整備により、能登の林業活性化と持続可能な森林経営を目指すことを目的とする。 (申請の背景等)</p> <p>石川県能登地方において、江戸時代中期から発展したアテ林業特有の技術体系は、令和5年5月に日本森林学会が選定する林業遺産に登録されている。一方、当地域は過疎化・高齢化が進行し、森林所有者の林業への関心が希薄化し、適切な保育が行われていない林分の多くは、過密状態のまま放置され、自然災害の危険性等も高まっている。このような高齢で過密状態の放置・荒廃した森林を、雪害・病害に留意しつつ、複層林や針広混交林への転換を進め、公益的機能の高い森林へと誘導するとともに、事業対象地に隣接する県営「石川県健康の森」関連施設に続く林業遺産ルート(仮称)を整備することで、森林環境教育や林業遺産の普及啓発効果を高めることも期待できるため、今回の申請に至ったもの。</p> <p>【申請金額】総事業費：57,729千円、森力助成：30,000千円</p>

<p>おおさかふ 大阪府森林組合 (大阪府)</p> <p>事業実施面積 6ha</p>	<p><b>事業名：クヌギ林とクリ林の育成による「広葉樹林業」のモデル構築 ～大都市近郊の豊かな生物多様性を育む里山を未来につなぐ～</b></p> <p>本事業の対象地がある大阪府能勢町には、古くは薪炭林として利用されたクヌギ林や山の斜面地にあるクリ林が多くみられ、このような広葉樹林が豊かな生物多様性を育んでいる。一方で、森づくりへの関心の低下や担い手不足などから、管理放棄による藪状化等が進行し、鹿や猪の生息域の拡大を招く状況になっている。</p> <p>本事業では、管理がなされず雑木林化したこのような広葉樹林について、効果的と見込まれる獣害対策を講じつつ再造林などを行い、大都市近郊の新たな「広葉樹林業」のモデルを構築することを目的としている。</p> <p>(申請の背景等)</p> <p>大阪府北部に位置する能勢町は、古くは高品質なクヌギ炭(池田炭)の主要産地であり、また、山の斜面地では栗栽培も行われてきたことから、クヌギ林・クリ林主体の二次林から構成される里山が広がり、その中ではギフチョウをはじめとする多種の蝶類やモリアオガエルなどの希少な生物が多く生息している。一方、林家の高齢化等に伴い森林の管理放棄が進行し、大都市近郊にありながら、豊かな生物多様性を育んでいる本地域の里山の荒廃が危惧される状況にある。他方、周辺の郊外住宅地を中心に、薪ストーブ用のクヌギ材の需要が旺盛となってきているほか、能勢由来の高品質な銀寄(ぎんよせ)栗への消費者の購買意欲も高く、移住者を中心にクヌギ林・クリ林の再生に関心を寄せる動きもみられる。このように、当地域においては、周辺都市部住民も含め、健全で持続可能な広葉樹の森づくりが強く期待されていることから、今回の申請に至ったもの。</p> <p><b>【申請金額】</b> 総事業費：34,101千円、森力助成：30,000千円</p>
--	---

## 農中森力基金の概要

- 1 **名称** : 「公益信託 農林中金森林再生基金」  
(通称: 農中森力 (もりぢから) 基金)
- 2 **信託形式** : 特定公益信託
- 3 **委託先** : 農中信託銀行株式会社

### 4 目的

国内の荒廃した民有林の再生により、森林の公益性を発揮させることを目指した活動に対して助成し、もって森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的とします。

### 5 助成対象事業内容

国内の荒廃した民有林の公益性を発揮させることを目指した活動であって、地域の森林に対する長期ビジョンをもった活動でかつ費用対効果に十分配慮した創造性が高いと認められる以下の事業に対する助成金の支給。

- ▶ 複数の森林所有者との長期安定的な契約に基づく、ひとまとまりとなった荒廃林の再生事業 (多面的機能の向上を目指した利用間伐・切捨て間伐、被害森林の整理伐・更新、天然更新のための択伐、間伐等を行っても再生が困難と見込まれる森林の更新等の施業を条件とする)
- ▶ 上記に附帯する林地境界明確化、林地調査、不在村者調査
- ▶ その他目的を達成するために必要な事業

### 6 助成対象者

営利を目的としない法人で、過去の活動歴等からみて本活動を運営するのに十分な能力、知見を有する団体 (ただし、地方公共団体は除く。)

### 7 選考方法

当公益信託の運営委員会が、当信託の趣旨、目的に照らし、事業内容や事業の効果等を総合的に勘案して選定します。具体的には、以下の条件に該当する事業の中から、特に、(1)、(2)に重点を置いたうえで、緊急性、継続性、波及性等が高い事業とします。また、当該事業が実施可能な相応の態勢を有する、もしくは態勢強化が見込まれる団体かを確認のうえ選定します。

- (1) 助成終了後も継続性・波及性が認められる事業
  - ・ノウハウ・技術・生産性の向上、コスト削減等の取組み
  - ・地況・林況・森林施業等が同種の地域における模範となる取組み
  - ・事業基盤充実（人材育成、機械化等）を目指した取組み
- (2) 過去に例の少ない先進的事業
- (3) 山づくりの長期的ビジョンが描かれ、それに基づいて申請事業の位置づけが明確な事業
- (4) 施業対象となる森林の整備が危急と認められる事業
- (5) 協同組合・地元住民・ボランティア・行政等と連携した活動

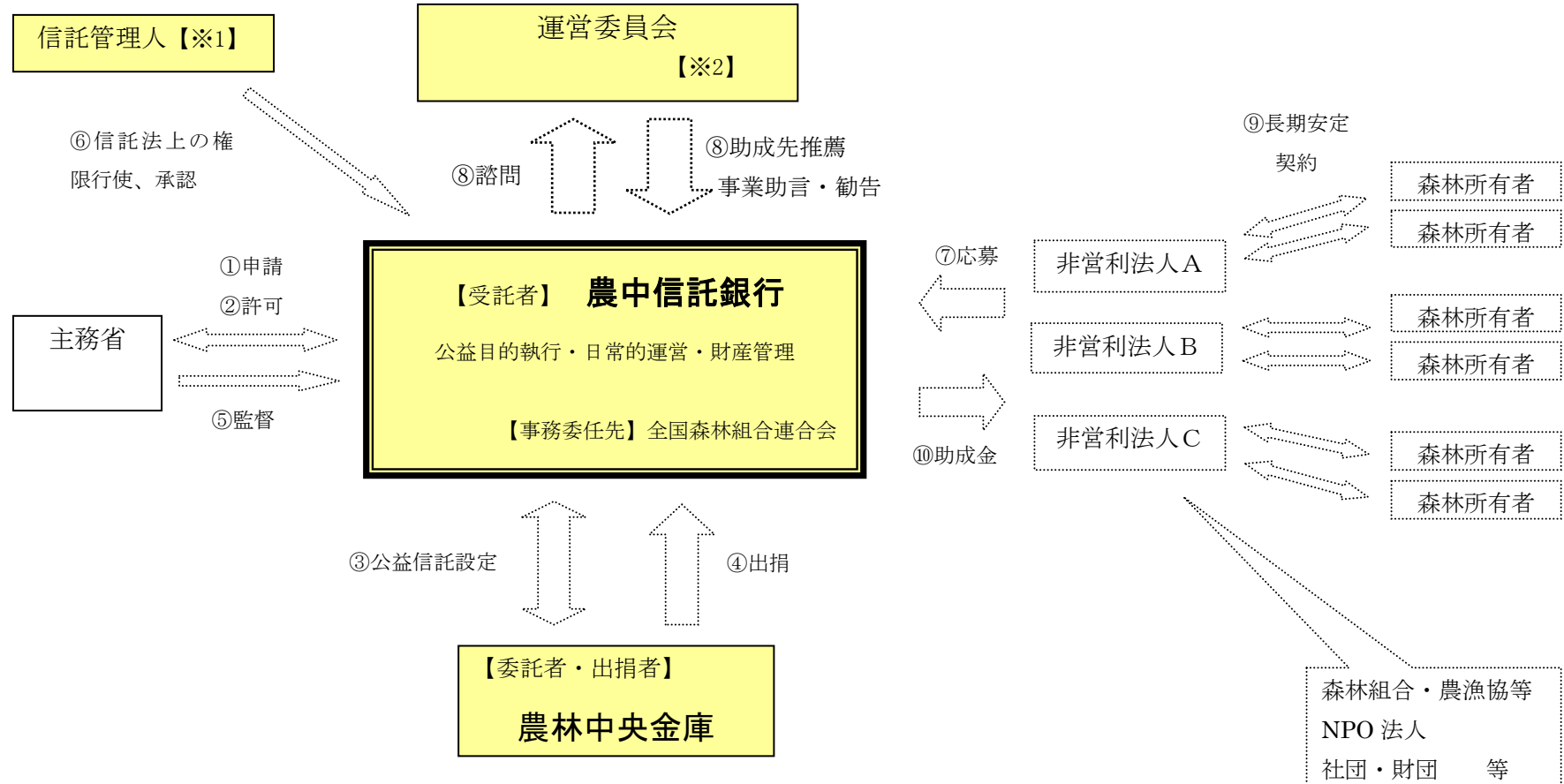
## 8 信託財産等

2019年から2023年まで5回募集（第6回から第10回）

- 年間助成額2億円、助成期間5年（10億円を上限）
- 1件あたりの助成金の限度額は30百万円とします。

以 上

# 農中森力基金のスキーム図



【※1】 不特定多数の受益者の代表として、受託者の職務執行を監督し、重要事項を承認する。

【※2】 公益目的遂行のため助成先の推薦や公益信託の事業遂行について助言・勧告を行う。学識経験者数名で構成。